

「NPO 法人 古館まちづくりの会」（紫波町）の活動が 内閣府の「社会参加章」を受章しました。

内閣府では、地域で社会参加活動を積極的に行っている高齢者のグループ等を毎年全国から募集し、広く全国に紹介するにふさわしいと認められる活動を「社会参加活動事例」として選考し、団体に「社会参加章」を授与しています。

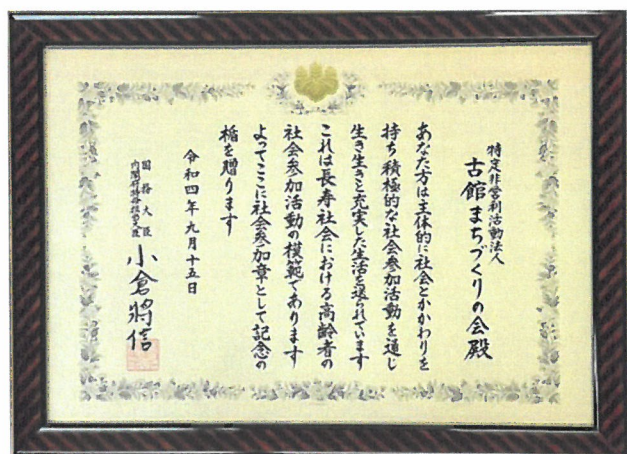
令和4年度、本県では、「特定非営利活動法人（NPO 法人）古館まちづくりの会」が「社会参加章」を受章しました。これを受け10月6日に紫波町古館公民館において伝達式が行われ、盛岡広域振興局保健福祉環境部長から書状及び記念の盾が授与されました。

「古館まちづくりの会」は平成31年4月に設立され、現在は20代から70代以上までの約70名の会員で活動しており、地域における核家族化、高齢化、近隣住民からの孤立化等のコミュニティの課題について、住民自らがその解決に取り組むことで、住民が希望を持って住み続けたいと思える地域づくりを目指しています。



活動は、放課後児童の学習サポート、異世代間交流となる「みんなの茶の間サロン」の運営のほか、地域の困りごとを解決するミニ相談窓口や人財バンク、団体サポート事業の実施など多岐にわたり、そうした総合的な事業展開が評価され、今回の受章につながりました。

今後については、これまでの活動を更に継続・拡充させていくとともに、それに必要な予算の確保など、運営基盤の充実にも力を入れていくとのことです。



～食を通じて世代を超えた

地域交流の場づくりを目指しています～

「むつみこども食堂」(洋野町) 代表 猪石 榮子 会員 11 名



《活動の経緯と概要》

むつみこども食堂は、近所の仲間 6 名が集まって平成 29 年 3 月に活動をスタートしました。現在、スタッフは 11 名に増え、それぞれが自分の都合に合わせて、無理のない範囲で活動に参加しています。

立ち上げのきっかけは、全国紙で「こども食堂」の記事を見たことです。みんな、子育ての苦労を経験したので、子育て中の親御さんを応援したい、特に、母親の負担軽減につながればいいな、という想いで始めました。

昨年のクリスマスコンサート



食堂は月 1 回、毎月最終土曜日の夕方に開催しています。参加者は特に制限しておらず、誰でも参加できるので、こどもから高齢者まで、いろいろな人が参加して、みんなで一緒にごはんを食べています。特に、ひとり暮らしの高齢者からは、「みんなで食するとおいしい」と喜ばれており、活動の励みになっています。地域の方々からも、食材の寄付やイベントへの参加などご協力いただいております。活動を始めたことで、多くの人と知り合うことができました。

新型コロナウイルスの流行前は、1 回当たり 30～40 人位が集まっていましたが、流行してからは、休止したり、集会を配達に切り替えたりしなが

ら続けてきました。しかし、閉じこもりや孤立を防ぐことが大切と考え、昨年からは、感染症対策に気をつけながら、コロナ以前の活動に戻しています。参加人数は若干減りましたが、楽しく活動しています。

今年も残すところあとわずか、11 月は「マジックショー」を開催し、12 月は「クリスマスコンサート」を予定しています。「誰かのために」と始めた活動ですが、いつの間にか、「自分たちの楽しみの活動」になっています。

食堂ばかりでなく体操教室も楽しみ



《今後の展望》

活動も 6 年目に入りました。スタッフも高齢化で身体のアチコチが痛くなってきました。核家族やひとり暮らし高齢者が増加する中、多世代交流の場を持つことは大きな意義があると考えていますので、まずは自分たちの健康管理をしっかり行いたいと思います。

(2022. 12. 06「むつみ食堂」寄稿)

多世代交流健康麻雀会（大槌町）会長 越田 勝 会員 35 名

健康麻雀は「お酒を飲まない」「タバコを吸わない」「お金を賭けない」がモットー。ゲームとしての楽しみはもちろん、脳をフル回転、手指を使い、会話をすることによる認知症予防の効果が期待されています。大槌町で多世代交流健康麻雀会がスタートしたのは平成 26 年。当時、大槌町の復興を支援していた東京大学の施設の 1 室を借りてのこと。その後、町の福祉課から「サロンに男性が来ない、引きこもり防止のため健康麻雀を」と声がかかります。町が予算を持ち、送迎まで行う。徐々に参加者も増加、現在では町は運営から離れましたが、毎週木曜日の教室には常時約 30 名が参加します。会場は平成 30 年オープンの町文化交流センター「おしゃっち」、年 1 回の大会には隣の釜石、山田のほか、盛岡や矢巾からも参加者が訪れます。更に今年は 11 月 20 日に第 1 回町長杯交流大会も開催され、宮城県から参加する方もいるなど盛り上がりを見せました。また、健康麻雀は文化庁の「国民文化祭・全国健康麻雀交流大会」など全国大会も多く開かれ、会からも参加して優秀な成績を挙げています。なお、会では「おしゃっち」周辺の美化活動や顔を見せない独居高齢者の見守りも忘れません。すっかり大槌町の高齢者の健康維持の取組として定着するとともに、東日本大震災で大きな被害を受けた市街地中心部の賑わい再生の取組としても評価されています。



釜石支援センター望（釜石市）センター長 海老原 祐治 会員 6 名

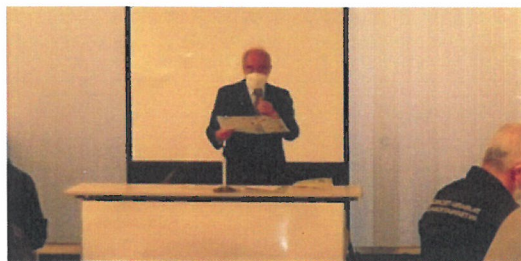
釜石支援センター望の設立は平成 25 年。代表の海老原さんは震災直後、札幌からキリスト教団の支援センターのボランティアとして釜石へ。センターの支援が一段落したところで、今後はこころの復興やコミュニティの再生（創設）が必要になると“望”を設立し、今年で活動は 10 年目になります。現在は中心スタッフ 3 人とボランティアで活動しています。事務所のあるサンフィッシュ釜石には誰でも自由に立ち寄って話ができるサロンを置くほか、復興住宅や新居移転者の新たなコミュニティづくりを目的に、復興住宅等 22 会場で、会場ごとにはほぼ月 1 回のペースで開催する「コミュニティ形成支援事業」も実施し、その他にイベント開催や相談事業も担います。「コミュニティ形成支援事業」では、お料理・お菓子作り、簡単手芸・クラフト、体操・レクリエーション、ミニコンサートなどを開催し、協働作業の中でつながりや支え合いを感じてもらいます。また、参加者の力を信じて自主性に委ねることも大事であり、“望”は伴走型の支援者とのことです。現在はコロナ禍などで参加者が減っているものの、何があっても継続が第一、こうした取組は時間をかけゆっくりと住民の気づきを引き出すよう進めなければならないとのこと。そして「被災者支援と言われなくなることが一つのゴール、被災者も被災者でない人も分け隔てなく共に活動する日が来ることを願う」という言葉が強く印象に残りました。



アクティブ・シニア交流会を開催～3団体からの活動報告とグループワーク～

令和4年12月6日（火）、3年ぶりとなる「アクティブ・シニア交流会」がアイーナで開催されました。

事務局を含め19名の参加のもと、最初に社会貢献活動に取り組む3団体から活動報告が行われました。一番手の『NPO 法人キツツキネットワーク岩手』（盛岡市）からは、地域医療を考えることからスタートし、「老いても、病んでも、自分らしく心豊かに」あることを掲げ活動してきたが、現在は「食」にたどりつ



キツツキネットワーク岩手

き、正しい食生活が健康寿命を伸ばし、生きることを楽しむことにつなげるとの報告がありました。

古館まちづくりの会



している「みんなの茶の間」（サロン）について説明がありました。無理せずにできることを基本に、各地区がそれぞれのテーマに、住民主体でそれぞれに合った手法で取り組むという分家方式で活動しており、歩いて行けるところに、色々な世代や環境の人が集い支え合える居場所があることで、地域が活性化しているとの報告がなされました。

最後に『おらどの会』（陸前高田市）から、会員の高齢化が進み、活動を継続していくことの難しさがある中、子供たちとの交流、高齢者施設の慰問、サロン活動などに取り組んでいるが、無理せず集まって話を楽しむだけでも良



おらどの会

いサロンを自宅やその近所で開催するなど、サロンの分散化を進め、自分たちがやりたいこと、幸せと感ずることを基本に、できることを行っているとの報告がありました。

その後、3つのグループに分かれ、参加者からそれぞれの活動状況を紹介し、各自が抱える課題について意見交換を行いました。様々な意見が出され、終了時間をオーバーしての閉会となりました。なお、アンケート結果では、勉強になった、また参加したいとの声が多く寄せられました。

いきいきシニアセミナー「共生社会をめざして」を1月31日に開催します

現在、健康で活動意欲のある高齢者が増えており、本セミナーはそのような高齢者が生きがいをもっていきいきと暮らせるよう少し背を押す支援を行うものです。（定員50人）

- 1 日時 令和5年1月31日（火）13:30～15:30
- 2 会場 アイーナ（いわて県民情報交流センター）8階 会議室812
- 3 演題 「共生社会をめざして～るんびにい美術館の歩み～」
- 4 講師 社会福祉法人光林会 理事長 三井 信義（みい のぶよし）氏



（※2021東京パラリンピック閉会式で「るんびにい美術館」で活動されている方々の作品が使われました。）

岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターは、特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会が岩手県から委託を受けて運営しています。〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通 2-4-16 やまのえんビル1階 TEL 019-604-8862 URL <http://www.hfk.or.jp>